

琉球大学学術リポジトリ

[報告書]国際ポリフェノール会議に参加して

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): ポリフェノール, 国際会議, ドイツ キーワード (En): 作成者: 和田, 浩二, Wada, Koji メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016597

報告書

国際ポリフェノール会議に参加して

和田 浩二

*琉球大学農学部

Postscript after international polyphenol congress in Germany

Koji Wada

Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus

Keywords: ポリフェノール、国際会議、ドイツ

2000年9月11日から15日までの5日間、ドイツ連邦共和国のミュンヘン工科大学のライフサイエンスセンターで第20回国際ポリフェノール会議が開催された。今回は2000年と20回目ということで、グループ・ポリフェノール学会と欧州植物化学会の合同大会として開催され、発表内容も多岐に渡った。ミュンヘン工科大学ライフセンターはミュンヘンからSバーン(電車)でFreising市へ行き、そこからバスで15分のWeihenstephanに位置する。Weihenstephanといえば世界最古のビール醸造所といわれており、その醸造所がキャンパス内の小さな丘の上に存在することからも醸造学部が重要な教育・研究機関になっていることがうかがえる(もちろん、そのカフェでビールを堪能したことはいうまでもないが)。

本会議は、以下の5つのセクションに分けられ、基調講演(15題)、口頭発表(39題)、ポスター発表(約280題)が行われた。

- ・ Genetics and Biosynthesis
- ・ Analytical Aspects and Synthesis
- ・ Pharmacology and Nutrition
- ・ Food and Polyphenols

・ Ecology and Plant Resistance

参加者(約350名)は欧州諸国が中心であったが、日本からの参加者も一割をしめた。多くの有益な発表のなかでも、特に印象に残った(個人的ではあるが)基調講演と我々の発表を簡単に報告する。

一つはイギリスのC.Rice-Evans教授による「Bioavailability and uptake of flavonoids」である。以前、植物体に存在するシキミ酸経路由来の化合物の抗酸化活性(NO消去能)をin vitroで測定する際に、同教授の文献を利用させていただいた。今回は種々の植物体由来のフラボノイドやフェニルプロパノイド系化合物の体内吸収や抗酸化作用についての紹介があった。また、地元ドイツのH.K. Olszowicz教授による各種機器分析を駆使したアントシアニンの構造解析法についてはよい勉強になった。さらに、日本からも名古屋大学の太澤俊彦教授が「Potential bioactives/health benefits of cocoa and chocolate polyphenols」と題して、カカオに含まれるポリフェノール成分の様々な食品機能について紹介した。太澤教授は食品成分の生体調節機能に関する研究の第一人者であり、琉球大学農学部で集中講義でみえられたことも

*沖縄県西原町千原1番地

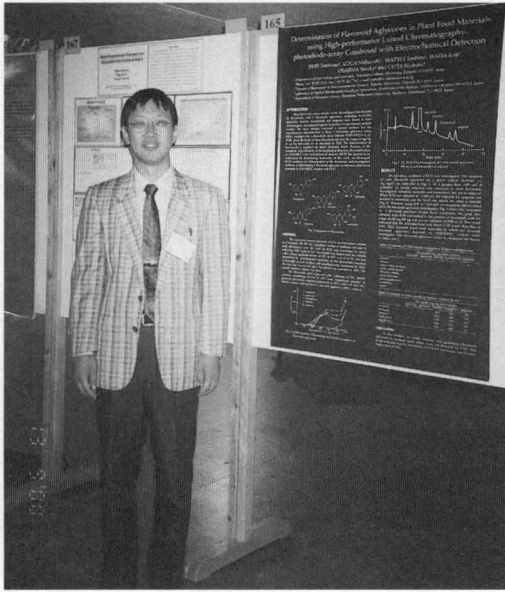


写真1 会場にて

ある。

我々は「Determination of flavonoid aglycones in plant food materials using high-performance liquid chromatography-photodiode-array combined with electrochemical detection」と題して発表を行った。本研究は、様々な植物性食品素材に含まれる5種類のフラボノイドのアグリコンを電気化学検出器を用い、同時定量する手法を確立したものである。中村学園大学（福岡市）の太田英明教授との共同研究の成果であり、沖縄発の素材としてはシイクワシャーの分析を行った。現在はそのフラボノイドの生体調節機能が着目され、機能性素材としての新たな利用が期待されている（品薄で1kg、3000円で取り引きされることもあると聞く）。

さて、宿泊地であったミュンヘンは南ドイツの中心都市であるが、治安もよく、清潔な街で



写真2 ミュンヘンの町並と路面電車

ある。ミュンヘン市内、周辺への交通はSバーン、Uバーン、路面電車、バスなど非常に充実していた。乗車券も回数券、グループ券、家族一日券など様々で、うまく利用すると移動は安上がりになる。また、電車内でたびたび大型犬と出会ったが、ペットのマナーも申し分なく、福祉に関しても十分に整備されていた。ただし、乗車券の自動販売機の表示や車内放送は全てドイツ語なので予備知識が必要である。

会議1日目、4日目にはレセプション、パンケット、それ以外の日は宿泊地ミュンヘンでビールを堪能した。とにかく、地元の人をよく飲み（ビールの種類、飲む量もケタ違い）、よく食べ（ソーセージの付け合わせのザワークラウト（すっぱいキャベツ）は最高）、よく騒ぐ（話す、踊る、歌う）と陽気で、会場でもカフェでも心地よく時を過ごすことができた。

次回は来年、モロッコのモンテカルロで第21回国際ポリフェノール会議が開催される予定である。

最後になりましたが、本会議に出席するにあたり御援助いただきました南方資源利用技術研究会に心よりお礼申し上げます。